

会館はやさしく癒してくれた

新潟県 三条女性会議所属

田辺とも子（たなべともこ） 68歳

新潟県立生涯学習センターの指導者に引率され、国内女性研修を受講した時が会館の初体験である。その後、ジェンダー研究フォーラムや、2002年の全国交流フェスティバル実行委員をつとめるため春夏秋冬おとずれることとなった。仲間たちと参加するジェンダー研究フォーラムは毎年の恒例行事となり、皆で元気を充電しあい、いきおいワークショップを開催したことも懐かしい。

2004年、会館行き目前の7月、新潟・福島豪雨が発生。床上110センチの被害に見舞われた我が家ではあったが、隣接の金属加工場は早々に復旧し、2週間後に仕事を再開、その他の片付けも進み、家族一丸となって新たな目標に向かう、それなりに平和な毎日を過ごす私であった。

しかし時に、えも言われぬ喪失感におそわれることもある8月初旬、「今年のヌエック、やめようかな？」ポツリ言うと、「エッ、行くでしょ！」と娘たち、息子と夫もうなずき、迷う私をおくりだしてくれた。会館までの道中、仲間たちのおしゃべりは格別で、「今年も来た！」ということが、すでに目的を果たしてしまったようで、その年の学習はおぼろげになってしまった。フォーラム最終日、静かになったロビーで一人、木立を見ていた。風が葉をサワサワと鳴らす。葉っぱたちが話しかけてくるように思われた。大きな自然の中につつまれている自分を感じた。心が落ち着いた。被災以前の私の日常が鮮やかに思い出された。

当時の三条女性会議代表として活動を休まずつづけられたのは、仲間の存在とともに、ヌエックでの学びが大きな力となっていたのだと考える。そして、気づけば心のよりどころとなっていた会館の広大な庭である。多種多様な植物と樹木が永遠であることを願う。